

令和8年度 第1回仙台市農政推進協議会 議事の概要

日時：令和8年9月2日（水）10時00分～11時20分

場所：仙台市役所本庁舎 3階 第一応接室

1. 出席者

委員 11名（うち1名途中到着、1名途中退席）（欠席3名）

事務局 11名

仙台市農業施策基本方針検討委員会 委員長 1名

傍聴 0名

2. 概要

1. 開 会

2. あいさつ

《藤本会長（仙台市副市長）》

3. 協 議

議事1. 仙台市農業施策基本方針の見直しについて 資料1-1、資料1-2
《仙台市農業施策基本方針検討委員会の伊藤委員長による検討経過・概要説明》

伊藤委員長（東京農業大学国際食料情報学部教授）

- ・基本方針（案）の検討にあたり、7名の委員により令和8年3月・5月・6月の計3回の検討委員会を開催した。委員には農業者、学識経験者、食育関係者、地域活動実践者など、フードチェーンの各分野に携わる多様な立場の人材が参画し、現場に根差した意見を収集した。
- ・現行基本方針の取組み状況、地域計画策定時の農業者意見、国の「新たな食料・農業・農村基本計画」及び宮城県の関連計画の内容を踏まえ、多角的な議論を重ねた。
- ・仙台市の農業は、東部地区の大区画圃場地域と、西部地区の中山間地域という特徴を有している。
- ・検討委員会では、近年の気候変動、生産資材価格の高騰、担い手不足・高齢化などの課題を抱えているとの認識が示され、委員からは、収益性向上、担い手の確保・育成、生産基盤の維持・強化の重要性について意見が出された。
- ・また、市民・消費者や流通事業者との連携による農業理解の促進、環境保全や防災、景観形成など農業の多面的機能の重要性についても意見が出された。
- ・スマート農業、農商工等連携、情報発信の強化など、仙台市の特色を活かした取り組みも重要との提言があった。
- ・今後は、基本方針（案）に基づく具体的な施策の推進と、農業者・関係団体を含む幅広い主体への周知・情報共有が重要であり、農業者、市民、流通関係者が相互に支え合いながら、仙台市の農業を次世代につなげていくことを期待している。
- ・本基本方針について、ゆくゆくは農業だけではなく、食や農村地域全体を対象とする視

点を踏まえたものにするよう、本協議会で検討を進めてほしい。

《事務局説明》

事務局（農林企画課長） ・ 資料1-1、資料1-2により説明

《質疑応答》

遠藤委員（仙台青葉学院短期大学教授）

- ・ 市民と農業者の交流機会創出は重要。地産地消推進や、農業の課題や将来に対する市民の理解促進につながる取組みを期待している。
- ・ クマやイノシシなど有害鳥獣問題について市民が知る機会が重要。環境局との連携が必要かもしれないが、農業分野に限定せず共存共栄の方法など全体を学ぶ場が必要である。

事務局（農林企画課長）

- ・ 消費者との交流や農業理解促進は、重要な柱として位置づけており、今後5年間で取組みを強化していきたい。
- ・ 有害鳥獣対策も本見直しの過程で議論に挙がったが、共生に関する知見も今後広がってくるので、有効な対策ができるか考えながら取組みを進めていきたい。

木村委員（仙台市土地改良区連絡協議会会長）

- ・ 農業用水取水堰の改修事業について、仙台東土地改良区の愛宕堰は老朽しており、管理人も高齢化しているため危険な状態で管理しているようだ。早く改修を進めてほしい。

事務局（農業土木課長）

- ・ 愛宕堰の改修は課題であるので引き続き検討していきたい。

事務局（経済局理事）

- ・ 以前から課題としてあったことは認識している。かなり古くなってきているので調査設計を少しでも始めていけるようにしていきたい。
- ・ 愛宕堰の下流の郡山堰の取り扱いについても合わせて検討していきたい。

内藤委員（仙台市議会議員）

- ・ 気候変動が課題と整理しているが、施策のどのあたりに反映しているか。

事務局（農林企画課長）

- ・ 現状認識として「1. はじめに」で記載し、各施策の柱で検討している。
- ・ 具体には、「施策の柱（2）③自然災害の備えや生物多様性の保全等を踏まえた農業用施設の予防的な補修や更新」などの施策を通じて対策を進めていく。

相原委員（認定農業者・6次産業実践者）

- ・ 農業体験やボランティア推進など作り手と支え手を繋ぐことが良く考えられている。一

方で、現場としては農業体験にかかる参加費が低く、農業者の収益につながらない側面があるので、農業者に寄り沿った事業展開を期待したい。

- ・小学校等連携による農業理解促進事業が記載されているが、保育所や幼稚園からも食育の観点から芋掘りなどの体験需要があるが、都市化によって畑を探しにくくなっている。興味がある方が探しやすいようにしてほしい。
- ・農業DXや大規模化に対応した将来像の提示も必要だと思うが、どういう目標を設定しているのか。
- ・イベントに開催に協力する場合、農業者側にどのようなメリットがあるのかを示す必要がある。

事務局（農林企画課長）

- ・農業体験の単価設定に関する具体の情報は持ち合わせていないが、どういった支援ができるかについて、今後情報収集して検討していきたい。
- ・小学校等連携は、今後は幼稚園や保育園に幅を広げて、農家の仕事について関心を深めるような取組みを検討していきたい。
- ・DXや大規模化の目標については、主要指標として「スマート農業機械等導入支援件数」の拡充や「農地整備事業完了割合」を挙げており、効率的な経営ができる環境を作りたい。
- ・イベント参加を通じて、農業者のPRに繋がり、農産物の魅力や美味しさを広く知ってもらえるというメリットは一定ある。地域での収穫祭などの開催を市が支援することで、農家の方が主体的に関われるような機会ができれば、参加する側として気持ちも変わってくるのではないかと。

事務局（経済局理事）

- ・1組織あたりの経営面積については議事2の農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想見直しで触れており、資料2-2に営農類型ごとの経営規模と得られる所得の目安などの指標を掲載している。

赤間委員（仙台市農業委員会会長）

- ・先般仙台市へ農業委員会からの意見書を提出しており、その中でも有害鳥獣対策について触れた。秋田県などで行われているゾーニングや緩衝帯整備など、抜本的な対策を期待したい。
- ・JA仙台でも収穫作業の親子体験を実施している。消費者や市民と農業者の交流促進はぜひ期待したい。

事務局（農業振興課長）

- ・有害鳥獣対策は環境局もいろいろな手法を検討している。環境局と連携しながら効率的な対策を講じていきたい。
- ・市でも親子の収穫体験の機会は作っており、農家の思いや農業の現場を学ぶことで消費者教育にも繋がればと思っている。農家と市民の双方が満足するように体験事業を進め

ていきたい。

事務局（経済局理事）

- ・環境局を中心に全庁を挙げてクマ対策を実施している。市街地への出没抑制のためゾーニングや緩衝帯設置も必要であり、検討を進めていく。農林部では農業者や町内会に対して草刈り補助を実施しており、クマが隠れる場所がなくなるような取組みを実施している。

藤本会長（仙台市副市長）

- ・クマの目撃状況は昨年度で延べ1,000頭。餌が不作だったので特に11月と12月が多かった。今年度は豊作と聞いているが、今後の動きに注視していきたい。
- ・夜行性で行動地点が動いていくので、箱わな設置やAIカメラ増設などに引き続き取り組んでいく。
- ・ゾーニングの線引きが不明瞭で難しい側面はある。街中に出たクマは処分せざるを得ないので、経済局としては農作物の被害を考えながら環境局と連携して引き続き対策を進めていく。

藤本会長（仙台市副市長）

- ・本案を、ご報告した内容で決定させていただきたいと思うが良いか。
⇒各委員から意見等なし。
- ・協議事項について正式に決定をする。

議事2．農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の見直しについて

資料2-1～資料2-3

《事務局説明》

事務局（農業振興課長）

- ・資料2-1～資料2-3により説明

《質疑応答》

相原委員（認定農業者・6次産業実践者）

- ・新規就農者の所得目標について、240万円は生活するうえでは厳しいうえ、240万円の所得を目指すことも現在の資材高騰等の環境下では厳しい。また、労働時間の2,000時間も若い就農希望者にとっては厳しく見える。就農相談時など制度を説明する際は現実を丁寧に説明してほしい。

事務局（農業振興課長）

- ・新規就農者をから同様の意見を聴いていて、高い目標であることは認識している。新規就農希望者からの相談会を月1回開催しているなかで、実情も丁寧に説明しながら新規就農を応援していきたい。

藤本会長（仙台市副市長）

- ・協議いただいた内容を踏まえながら、農業関係団体との意見聴取、宮城県との協議を進めさせていただきたいと思うが良いか。
⇒各委員から意見等なし。
- ・協議事項について、以後事務局にて対応する。

藤本会長（仙台市副市長）

- ・その他、委員の皆様から情報提供や連絡事項等があれば発言をお願いしたい。

恵津委員（みやぎ生活協同組合地域代表理事）

- ・先日、今年度大豆生育状況が良くないことを大郷町で聞いてきた。農家が苦しいときに私たち消費者や行政がどういう支援をできるのか考えていかなければならない。

齋藤委員（さいとうゆうこ管理栄養士事務所代表）

- ・学校給食に以前携わったことがあり、その時は地元食材を使いたくとも価格が合わなかった。泥付きの野菜だと利用が難しいため、加工や下処理されている野菜のほうが使いやすい。今後、需要に対して一次加工のシェアモデルを作っていくような取組みや設備が必要になってくるのではないかな。

柴崎委員（しばさき農園）

- ・仙台東部地区で葉物野菜を周年栽培している。労働時間や所得について、現実には数字で表しにくい働き方をしているところもある。天候や資材高騰など生産者は苦しい面もあるが、できるだけ良い方向に行けるように皆さんのお力をお借りしたい。

藤本会長（仙台市副市長）

- ・本日頂戴したご意見などは、今後の施策を具体化していくなかで参考にさせていただきたい。

5. 閉 会

以上